

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2022 -1	2021/12/29	Japanese Cabinet Approves \$47B Defense Budget	日本政府は470 億ドル(5.4 兆円)の防衛予算を閣議決定	USNI News 2021/12/29	 USNI ニュース版の防衛予算です。	岩崎洋一
2022 -2	2022/1/4	UISS Conducts Successful Underwater Explosion Shock Test	UISSが水中爆発衝撃試験を成功裏に実施	NAVSEA News 2022/1/4	 開発に苦労を重ね、多大な経費と時間を要していたLCS用MCMミッションパッケージの根幹となるUSVの開発によりやく目途がついたようです。それにしても大型艦に実施するのと同じような耐衝撃試験を無人ビークルにまで適用すると、MCM USVに対する米海軍の期待の大きさがうかがえます。	佐々木司
2022 -3	2022/1/7	The Navy Is Betting Big On High-Power Microwave Weapons	海軍は高出力電磁波兵器に大きな賭けをする	THE WARZONE 2022/1/7	 米海軍が高出力電磁波(HPM)兵器開発のためNAVSEAに専従部門を新設しました。記事ではHPM兵器が1度の射撃における有効範囲の広さから、特に多数のドローンによる飽和攻撃に有効対処できるとしています。レーザー同様、弾庫が不要で無限に射撃できることも魅力です。米海軍ではレーザーとHPMを競合させるのではなく相互補完する計画です。	佐々木司
2022 -4	2021/12/24	US Navy completes final weapons elevator on aircraft carrier Gerald R. Ford	米海軍は空母「ジェラルド・R・フォード」が装備する最後の弾薬昇降機を運用可能にする	Defense News 2021/12/24	 2015年9月に引き渡し予定だった空母「フォード」がようやく完全な引渡しとなつて、6年の配備遅れ、28億ドルの予算超過であると上院議員から批判されています。1社独占の弊害がこういうところにも現れているということでしょうか？	岩崎洋一
2022 -5	2022/1/12	Marines, Japanese Ground Forces Link Up at Iron Fist for ACV, Amphibious Training	米海兵隊と陸上自衛隊が演習「アイアン・フィスト」で連携し、ACVで両用戦訓練を実施	USNI News 2022/1/12	 日米の両用戦訓練がカリフォルニア州で始まりました。6 週間かけて行われるということです。現代の戦いでACV を使った訓練に戦術的な意味があるのか疑問ですが、米海兵隊の戦術や技量を陸自が体得する機会になると思料します。	岩崎洋一
2022 -6	2022/1/5	Learning the lessons – the loss the Norwegian frigate Helge Ingstad	教訓を学ぶ-ノルウェー海軍のフリゲート艦Helge Ingstadの喪失	NAVY LOOKOUT 2022/1/5	 約3年前に起きた、ノルウェー海軍艦艇の事故調査報告書の概要です。大事故にはつきものなのでしょうが、事故発生の前後に多くの要因が複合して、衝突、喪失に至ったことがわかります。余りにも大きい損失でしたが、現代の艦船の盲点とも言える、多くの教訓も示しています。警備艦の本来的な設計はもとより、省人化等に寄与する各種システムの設計にも反映すべき多くの事項が見出されました。高緯度地方でもと思いつつも、所謂、払暁の「魔の時間帯」も再認識させられます。設計的事項にのみ絞っては、電源や通信の喪失、排水能力の適正性、高度化されたシステムは無数の警報は出しても、乗員の意思決定を的確に支援し得なかったことなどは、注目すべきことです。どんなシステムでも本当の意味で使える程度までに仕上げるには、相当な努力が必要です。これは、十分に練られた訓練内容を参考にしても、体得し切るものではないでしょう。このことから、今回の事故のみならず、過去の艦船の戦闘や海難等の被害状況を調査し、艦船設計への反映事項を抽出することは、設計・技術に従事する者にとって、日常から継続していくべきことと思います。	本山泰之
2022 -7	2022/1/12	Navy Unveils Next-Generation DDG(X) Warship Concept with Hypersonic Missiles, Lasers	海軍が極超音速ミサイルやレーザーを装備した次世代DDG(X)艦のコンセプトを公表	USNI News 2022/1/12	 米海軍が次世代DDG(X)の計画概要を初公表しました。高出力レーザー、極超音速ミサイル、統合電気推進、発展型SPY-6など新機軸が多数ある一方、船型はタンブルホームではなく、従来船型になる方向のようです。寸法は不明ですが見た感じArleigh Burke級より大きく、搭載武器から当然、Arleigh Burke級より高額になるでしょう。図では錨甲板は暴露部になっています。	佐々木司

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2022 -8	2022/1/7	HMS Northumberland gets up close with a Russian submarine	HMS Northumberlandロシア潜水艦に接近する	NAVY LOOKOUT 2022/1/7	 <p>先般、我が国でも報道された、露潜水艦と英艦の衝突に関する記事です。この事故は、テレビ報道チームが乗艦しているときに発生し、昨秋報道されたそうです。詳細な記述はありませんが、NATOが海底探知網、哨戒機や衛星情報も含めた優れた潜水艦探知態勢を敷いていることがわかります。また、老朽化に苦しむ報道が多いType23ですが、最も早くに電気推進を採用した艦船でもあり、TAS(日本名:TASS)使用時には、ロシア原子力潜水艦に気付かれることなく、近接できることも示しています。相手も老朽艦であった可能性もありますが、厳しい環境の冬のバレンツ海で、今日でも追跡劇が継続されていることがわかりました。探知に用いられたTASは最新式であり、AI技術などを駆使し、今回のような探知経験も同型のTASファミリーに共有され継承されると思われます。そして、そのまま建造中のType26にも継続して搭載されるとのことです。</p>	本山泰之
2022 -9	2022/1/	Whither the Lightning Carrier in an Asia-Pacific War?	アジア太平洋の戦争でライトニング空母はどうなる?	Proceedings 2022/1/	 <p>軽空母の条件付き有用性について論じた解説です。Proceedings誌1月号から。</p>	岩崎洋一
2022 -10	2022/1/24	Pilot Ejects After F-35 Lightning II 'Landing Mishap' on USS Carl Vinson in South China Sea	南シナ海の「カール・ヴァインソン」艦上でF-35 が「着艦ミス」、パイロットは射出	USNI News 2022/1/24	 <p>4時間前にUSNI ニュースが速報したニュースです。パイロットは射出しましたが、甲板作業員7名が負傷ということです。3名は重傷のようです。</p>	岩崎洋一
2022 -11	2015/2/24	Why not composites in ships?	船舶に複合材料を使ってみませんか?	Reinforced plastics 2015/2/24	  <p>7年前の文献ですが、Reinforced plasticsという英国の複合材料専門誌の複合材料の船舶への適用に関する記事です。複合材料は、軽量化、耐衝撃性、各種シグネチャー低減などの観点から、欧米海軍にて積極的に適用されています。ただし、民間船分野に浸透しないのは、価格の他にも、火災への懸念が依然大きく、それは各船級協会やIMOその他の組織の意向が強いことがわかります。一方で、日本の大島造船所が複合材料製ハッチカバーを開発したことが、欧州で高く評価されています。鋼製の3分の1の重量になり、かつ輸送貨物の損傷軽減に期待されているようです。軍用でも防火対策は最重要ですが、技術・運用面での実績は蓄積されてきています。ただ、火災懸念の少ない分野では、潜水艦の上部構造や艦橋への適用が挙げられます。豪airspeed composites社は、この取組みにより62%の軽量化を実現したそうです。豪潜水艦では、上部構造等の軽量化分がバラストに振り替えられ、復原性改善に寄与したそうです。浮量の制御が困難な潜水艦では、上部構造等の軽量化が復原性改善への数少ない選択肢の一つです。それに寄与する、複合材料技術は重要な技術と考えます。</p>	本山泰之
2022 -12	2022/1/27	Navy Officer Pleads Guilty in 'Fat Leonard' Bribery Investigation as 6 Others Face Federal Trial	「ファット・レオナード」事件で海軍士官が有罪を認め、別の6人は連邦裁判に	USNI News 2022/1/27	 <p>ファット・レオナード事件は大詰めを迎えているようです。</p>	岩崎洋一